



画像診断のはなし



乳がん検診を受けよう

診療放射線科
柴田 友子

乳がんになる女性が年々増加していることをご存知ですか？

乳がんは、女性のがん罹患数第1位で、いま日本人女性の11人に1人が乳がんになると言われています。乳がんで亡くなる人は年間1.4万人以上であり、女性にとって大きな問題です。今回は、乳がんの早期発見に繋がる、乳がん検診についてお話しさせていただきます。

乳がん検診について

乳がんは40～50代に最も多く、70代以降もそれほど減少しません。歳を重ねても油断できない病気なのです。乳がんの危険因子には以下のようなものがあります。当てはまる項目がある方は特に注意が必要です。

- 初潮が早い
- 閉経が遅い
- 出産・授乳経験がない
- 初産が30歳以上
- 閉経後の肥満
- 飲酒量が多い
- たばこを吸う



乳がんを完全に予防することは難しいため、定期的な検査が必要です。乳がんは早期に治療を行えば治る可能性が高い病気です。しかし、がんの進行度によっては、治すことが難しくなってしまいます。乳がん検診を受けることで、乳がんの早期発見へ繋がります。また、検査を受けて「何もなかった」という安心が得られることも検診の大きなメリットです。

乳がん検診の対象者は40歳以上で、受診間隔は2年に1回とされています。検診後のがんができることや、ごく小さながんは一度の検査での発見が困難な可能性もあるため定期的な受診が大切です。検診方法は、問診と乳房X線検査（マンモグラフィー）です。マンモグラフィーによる乳がん検診は、乳がん死亡率を減少させる効果が科学的に証明されています。

しかし、日本の乳がん検診受診率は低く、その受診率の低さが死亡数増加の原因とも言われています。乳がんで亡くなる人を増やさないためにも、より多くの女性に乳がん検診について知っていただきたいと思います。



マンモグラフィーについて

マンモグラフィーとは乳房のX線撮影のことをいいます。マンモグラフィーは、乳がんの初期症状である微細な石灰化や、触診ではわかりにくい小さなしこりを検出できるため、早期発見に有効です。検査時には、上半身のお洋服を脱いでいただきます。検査時間は5～10分程度です。



マンモグラフィーのイメージとして一番に挙がるのが「痛み」だと思います。撮影中は、皮膚が引っ張られたり、乳房が押しつぶされたりすることで痛みを伴うことがあります。乳房が圧迫されている時間は撮影が終わるまでの10秒程度です。乳房を薄く広げて固定する理由としては以下のようなものがあります。



- 乳腺の重なりが少なくなり小さな病気も見つけやすくなる
- ボケの少ないきれいな画像が得られる
- 被ばく線量が少なくなる

痛みの感じ方には個人差がありますが、なるべく体の力を抜き、リラックスした状態で受けていただくと痛みが和らぐようです。また、生理前の時期に検査を受けると、乳房が張っているために痛みを感じやすいことがあります。生理が終わったあとの乳房の柔らかい時期に撮影すると痛みが少なくなります。もし、我慢できないような強い痛みや、気分不快を感じた場合は、すぐに撮影技師へ遠慮なくお申し出ください。

注意事項

以下の項目に該当する方は基本的にマンモグラフィー検査を受けることはできません。検査前に必ずお申し出ください。ただし、片側のみの撮影など、一概にマンモグラフィーの撮影ができないというわけではありませんので、医師に撮影可能かご確認ください。

- 妊娠中・授乳中の方
- 豊胸術後の方
- ペースメーカーを挿入している方
- CVポートを挿入している方
- VPシャント、VAシャントを挿入している方



検査手順や痛みの具合などは、確認をしながら検査を進めていきます。また、撮影は女性技師が行いますので、裸になることに抵抗のある方にも少しでも安心して検査を受けていただければと思います。多くの方に知っていただき、乳がん検診がより身近なものになることを願っています。